

令和 8 (2026) 年度 病害虫発生予報 第 7 号

令和 8 (2026) 年 10 月 16 日
栃木県農業総合研究センター
環境技術指導部

予想期間：10 月下旬～11 月下旬 予報の根拠で、(+) は増加要因、(-) は減少要因を表す。

1 いちご うどんこ病

- (1) 発生予想 発生量：多い
- (2) 根拠
 - ・現在の発生量は多い (+)
 - ・向こう 1 か月の気温は高く (+)、降水量は多く (+)、日照時間は平年並か少ない (±～+) 見込み
- (3) 対策
 - ・施設内の湿度が高くなりすぎないように換気を行うとともに、適正な温度管理に努める。
 - ・予防を主体とし、葉裏にもよくかかるように RAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。
 - ・硫黄くん煙剤の使用にあたっては、天敵に悪影響を及ぼす可能性があるため、天敵導入ほ場では長時間のくん煙処理は避ける。

2 いちご ハダニ類

- (1) 発生予想 発生量：多い
- (2) 根拠
 - ・現在の発生量は多い (+)
 - ・向こう 1 か月の気温は高い (+) 見込み
- (3) 対策
 - ・ほ場をこまめに観察し、増殖する前に防除を行う。
 - ・ハダニ類は葉裏に寄生するため、薬剤散布時は薬剤が葉裏に付着するように散布する。なお、化学農薬に対する感受性低下が起こりやすいため、必ずローテーション散布を行うとともに、抵抗性が発達しにくい気門封鎖剤や天敵製剤を活用する。
 - ・天敵導入時にハダニ類が多いと失敗しやすいので、天敵導入前に気門封鎖剤や天敵に影響の小さい薬剤を散布し、ハダニ類の密度を下げておく。
- (4) 備考
 - ・[ナミハダニ\(いちご\)の薬剤感受性検定結果](#)を当センターホームページ (HP) に掲載中

3 いちご アザミウマ類

- (1) 発生予想 発生量：平年並
- (2) 根拠
 - ・現在の青色粘着板による誘殺数は平年並 (±)
 - ・向こう 1 か月の気温は高く (+)、降水量は多い (-) の見込み
- (3) 対策
 - ・施設内外の除草を徹底する。
 - ・花を注意深く観察し、発生を認めた場合はマッチ乳剤 (I:15) を散布する。観察した花の 1 割以上にアザミウマ類が見られた場合には、スピノエース顆粒水和剤 (I:5) 等を散布する。特に、開花の早いほ場では侵入されやすい傾向があるため注意する。
- (4) 備考
 - ・[防除のポイントNo.19、栃木県のいちごに発生したヒラズハナアザミウマに対する主要薬剤の殺虫効果、いちごときくに発生したアザミウマ類の薬剤感受性検定、続報](#)を当センター HP に掲載中

4 果菜類 コナジラミ類（トマト：黄化葉巻病（TYLCV）、黄化病（ToCV）・きゅうり：退緑黄化病（CCYV）

- (1) 発生予想 発生量：やや多い
- (2) 根拠
 - ・現在のトマトのコナジラミ類の発生量は平年並（±）
 - ・現在のきゅうりのコナジラミ類の発生量は平年並（±）
 - ・向こう1か月の気温は高く（+）、降水量は多い（-）の見込み
- (3) 対策
 - ・施設内外の除草を徹底する。
 - ・ウイルスを媒介するコナジラミ類の侵入を防ぐため、ハウスの開口部（出入り口、側窓、天窗）に 0.4mm 目合以下の防虫ネットを展張し、特に出入り口は二重にする。
 - ・黄色粘着板の設置により、コナジラミ類の早期発見に努める。
 - ・黄化葉巻病の耐病性品種であっても、感受性品種と同様に、コナジラミ類を適切に防除する。
 - ・薬剤抵抗性の発達を防ぐため、RAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。
 - ・ウイルス病の発病株は見つけ次第抜き取り、土中に埋設するか、ポリ袋などで密封し枯死させてから処分する。
- (4) 備考
 - ・ [病害虫防除対策のポイントNo.22](#)、[タバココナジラミ類薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中

5 その他の病害虫

作物名	病害虫名	現況	発生予想	作物名	病害虫名	現況	発生予想
いちご	アブラムシ類	やや少	やや少	ねぎ	シロイチモジヨトウ	やや少	やや少
きゅうり	褐斑病	多	多	きく	アザミウマ類	少	少
	べと病	平年並	多		ハダニ類	やや少	やや少
	アブラムシ類	やや多	やや多	野菜類・花き類	オオタバコガ	平年並	平年並
ねぎ	黒斑症状 (黒斑病・葉枯病)	やや多	多		ハスモンヨトウ	やや少	やや少
	アザミウマ類	やや少	やや少				

○ 今後の病害虫対策

- (1) 再生稲（ひこばえ）の耕起（ヒメトビウンカ・ツマグロヨコバイ・イネカメムシ・スクミリンゴガイ）
 - ・再生稲（ひこばえ）は、縞葉枯病（媒介昆虫：ヒメトビウンカ）、黄萎病（媒介昆虫：ツマグロヨコバイ）の媒介虫の増殖源及び病原の獲得源になる他、斑点米の原因となるイネカメムシの一時的な生息場所となるため、早めに丁寧な耕起を行いましょう。
 - ・再生稲（ひこばえ）の丁寧な耕起により、スクミリンゴガイ（俗称：ジャンボタニシ）の越冬個体を物理的に破碎し、越冬数を減らしましょう。
- (2) 麦類の種子消毒
 - ・オオムギ斑葉病やコムギなまぐさ黒穂病、ムギ類黒節病等の予防のため、種子消毒を必ず行いましょう。なお、オオムギ斑葉病は遅まきすると発病が多くなるため、適期には種を行いましょう。

○ 農薬の安全使用等

令和 8（2026）年 11 月～令和 9（2027）年 1 月は「栃木県農薬危害防止運動」の実施期間です。農薬を適正に使用しましょう。

(1) 薬剤抵抗性発達の抑制

- ・薬剤で防除する際には、RAC コードの異なる薬剤をローテーション散布しましょう。

(2) 有用生物への影響に留意

- ・花粉媒介昆虫（ミツバチ、マルハナバチ）や天敵に対する影響日数に注意して薬剤を選択しましょう。

(3) 農薬適正使用の徹底

- ・農薬は適正に保管・管理しましょう。
- ・農薬を使用する際は、容器のラベルに記載された内容を遵守し、農薬による事故等の発生を防ぎましょう。
- ・薬剤散布の後には必ず作業内容を記録し、防除履歴を作成しましょう。
- ・農薬の総使用回数は有効成分ごとに定められています。ラベルを十分確認し、有効成分ごとの総使用回数を超えないよう適正に使用しましょう。

○ 1 か月気象予報（予報期間：10 月 17 日～11 月 16 日 10 月 15 日 気象庁 発表）

- ・暖かい空気に覆われやすいため、向こう 1 か月の気温は高いでしょう。期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。
- ・低気圧や前線の影響を受けやすいため、向こう 1 か月の降水量は多く、日照時間は平年並か少ないでしょう。

向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（％）

項 目	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気 温	1 0	2 0	7 0
降 水 量	2 0	3 0	5 0
日照時間	4 0	4 0	2 0

○ お問い合わせ等

- ・詳細は農業総合研究センター環境技術指導部防除課（Tel. 028-665-1244）までお問合せください。
- ・病虫害情報発表のお知らせは、[X「栃木県農政部 \(@tochigi_nousei\)」](https://twitter.com/tochigi_nousei)、[農業総合研究センターHP \(https://www.pref.tochigi.lg.jp/g59/index.html\)](https://www.pref.tochigi.lg.jp/g59/index.html) でも御確認いただけます。
- ・[カメムシ防除作戦 HP \(https://www.pref.tochigi.lg.jp/g05/kamemushi.html\)](https://www.pref.tochigi.lg.jp/g05/kamemushi.html) も御確認ください。



X「栃木県農政部」



農業総合研究 HP



カメムシ防除作戦 HP